

始良・伊佐地域青少年育成だより

発行
始良・伊佐地域青少年育成推進協議会
第48号 令和 4年 7月

〒899-5212始良市加治木町諏訪町12
始良・伊佐地域振興局総務企画課地域振興係
TEL 0995-63-8109 FAX 0995-63-8108
HP 鹿児島県始良・伊佐地域振興局 健康・福祉→検索

「令和4年度県青少年育成県民会議」総会開催

標記総会は、6月3日（木）に県青少年会館で新型コロナウイルス感染対策をとり、2年ぶりの開催となりました。県下各地から会員が集い、前年度の事業報告・収支決算及び本年度の事業計画・収支予算等を協議して、承認されました。関連行事として「かごしま子ども・若者総合相談センター」の事業紹介と2年間の相談実績の報告がありました。その中で「センターが周知されていない」「本人からの相談件数より、家族からの相談が多い」など課題の報告もありました。

また、令和4年度青少年育成県民会議の表彰式が開催され、3名の個人と4団体が表彰され、始良・伊佐地域からは、個人の部 中森春志さん、団体の部 あぐり倶楽部始良松原さんが表彰されました。おめでとうございます。

【青少年育成指導者の部】

氏名(市町村)	活動の主な内容
中森 春志 (始良市)	昭和63年から長年にわたり、柁城小バレーボールスポーツ少年団の指導者、その活動を通じ、青少年の育成に貢献された。
内村 智子 (志布志市)	更生保護女性会で長年活動された義母とともに、平成元年から有明BBC会と共同で「ともだちでんわ」を開設し、子ども達の悩み相談を受けている。
迫田 勉 (曾於市)	県教職員を退職後、平成11年から大隅地域青少年育成指導員として、学校や関係団体と連携し、環境浄化活動等に尽力された。



中森春志さん



あぐり倶楽部始良松原さん



【青少年団体・グループの部】

団体名(市町村)	活動の主な内容
中高生ボランティアクラブ 「鹿屋っ子クラブ」 (鹿屋市)	様々な研修や体験・ボランティア活動を通して、中学・高校生の地域リーダーとしての資質を高めるとともに、地域社会の発展に寄与する健全な青少年を育成するために設立された。学校枠を超えた幅広い交友関係を築きながら、本地域愛を持ち、活性化に寄与できる人材育成の場となっている。

【青少年育成団体の部】

団体名(市町村)	活動の主な内容
あぐり倶楽部始良松原 (始良市)	地域の地理や歴史・文化をはじめ、衣・食・住などに関心のある方に対して、交流の機会を促進するために設立、松原なぎさコミュニティ協議会まちづくり環境部として青少年育成に取り組んだ。
大崎町 更生保護女性会 (大崎町)	昭和36年の設立から、「青少年に母の愛を」の精神を会員一人一人が自覚し、更生保護活動はもとより、青少年育成活動や子育て支援活動を実践している団体である。青少年の健全育成及び更生保護に大きく尽力されている。
西阿木名地区推進協議会 (天城町)	平成元年に、集落・学校・行政関係者が一体となって、子どもと大人がともに学び成長する実践の場をつくるとともに、住みよい地域づくり・人づくりを目指して設立され、長年にわたり様々な分野で健全育成に貢献している。



「令和4年度始良・伊佐地域 青少年育成推進協議会」総会 7月25日開催



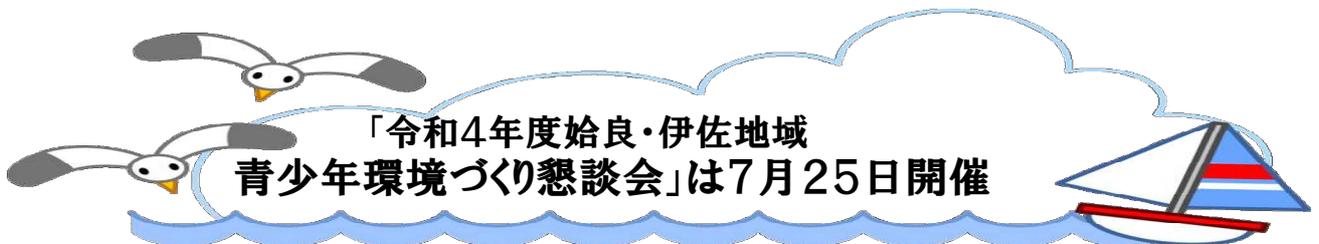
標記総会は、本年度は新型コロナウイルス感染対策を講じながらの2年ぶりの開催になります。青少年育成市町民会議会長（各市町長）をはじめ、教育事務所長や警察署、各市町社会福祉協議会、PTA連絡協議会等関係団体の代表、青少年育成コーディネーター、地域振興局長等に出席していただき、協議する予定です。

総会資料には、令和3年度事業活動報告や令和4年度活動方針及び事業計画案、「郷土に学び・育む青少年運動」に関する管内4市町の取り組み状況が掲載されています。さらに、県民運動に関する参考資料等も掲載されています。

本年度も「郷土に学び・育む青少年運動」を推進し、昨年度より大きな成果を収めるため、「かごしま地域塾」や「少年の主張」など多くの事業を一層拡充し、積極的に推進して参ります。会員の皆様には、送付された資料を熟読して頂き、昨年度同様のお力添えを宜しくお願いします。



「第44回少年の主張鹿児島県大会」作文一次審査会結果
始良・伊佐地域からの今回はエントリーがありませんでした。
本選は8月7日開催予定!!生徒の思い考えをぜひ次回に挑戦お願いします!!



「令和4年度始良・伊佐地域 青少年環境づくり懇談会」は7月25日開催

標記の懇談会を7月25日に開催致します。青少年健全育成活動の拡充を図るためには、まず、指導者の方々に時代の流れに即応した新たな指導方法等を学んで頂き、指導者として一層の資質向上を図るために開催するものです。関係者の皆様は奮って御参加・仲間への声かけにお力添えください。

青少年の健全育成のためにみんなで定着させましょう!!

毎月の第3土曜日は、「青少年育成の日」

毎月の第3日曜日は、「家庭の日」

毎月の19日は、「育児の日」「食育の日」

★管内の小・中・高等学校では、職員室の行事黒板に毎月明記し、

加えて、該当週の金曜日に、各学級での呼びかけ指導の督励に努めています。

さらに、家庭の日は「サンデーファミリアン（家族揃っての食事会）」の実施を目指しています。



令和4年春の「故郷に学び・育む青少年運動」の取り組みから

【伊佐市の取り組み報告】

大口明光学園はカノッサ修道女会設立のカトリック・ミッションスクールである。令和4年3月11日(金)～16(水)にかけて、ウクライナ難民のための支援募金活動を実施しました。

今年2月より始まったロシアのウクライナ侵攻を受けて、隣国のポーランドに避難しているウクライナの人々を、ポーランドのカノッサ修道女会のシスターが受け入れ支援しています。現地では大変な状況になっていることから、本校でも支援募金を行い、協力することにしました。

中学・高校の生徒会執行部が中心になって呼びかけ、短期間ではあるが募金活動を行い、結果として、39,260円が集まり、送金することができました。

生徒・職員が一丸となって取り組み、この活動を通して、平和について改めて考え、1日も早く人々が心穏やかに過ごせるよう祈ることができました。



【伊佐市の取り組み報告】

伊佐市立本城小学校では、子どもたちの健全育成を目指した活動として、「一日の始まりは、『気持ちのよいあいさつ』からスタートすることが大切である」を基に、本校区でも、毎月13日を基準日として「伊佐さわやかあいさつ運動」を本城小学校前交差点(スカラー前)で、校区コミュニティ協議会役員・校区民生員他15名で、地域の方々と児童の結びつきを深め、児童の安全を見守る活動を推進しています。



【始良市の取り組み報告】

松原なぎさ小学校では、登下校時間帯に交差点及び横断箇所において、安全確保の交通誘導と、青パト車で防犯活動の巡回を実施することで、子どもたちの安心安全の確保に努めています。児童・生徒の登下校時に各自治会内の通学路において、始良っ子見守り帽子・ベスト・横断旗を身につけ、児童の横断時に交通誘導を行っています。また、防犯活動では、2台の青パト車と1台のバイクが巡回を実施しています。



【春の運動期間における各市町の主な取り組み】

市町名	主 な 取 り 組 み 事 項
霧島市	○街頭での声かけ・あいさつ運動 ○霧島市立青少年育成センター指導員及び補導員による街頭補導 ○中・高校生クラブひまわり ○相談体制の充実
伊佐市	○校区見守り隊へのお礼の会 ○春の交通安全運動の推進 ○春休みに学校職員で校区内の見回り ○PTAによる朝の登校指導 ○PTA, コミュニティ協議会, 民生委員によるあいさつ運動の実施 ○朝の朗読放送の実施 ○伊佐さわやかあいさつ運動 ○GIGAスクール構想の周知 情報モラル啓発資料の活用
始良市	○市青少年育成市民会議で作成したインターネット利用に関するチラシの配布 ○地域が育む「あいらっ子」あいさつ運動強調月間 ○街頭補導活動 ○家庭教育ラジオ「まあるくなった」
湧水町	○町民とあいさつ運動を実施し、登下校の見守り ○パトロール強化 ○スマートフォン等の利用について呼びかけ ○校外生活指導連絡会との連携

夏の「郷土に学び育む青少年運動」期間中!!

7月1日(金)から8月31日(水)までが夏の「郷土に学び・育む青少年運動」の実施期間となります。各市町教育委員会や青少年育成市町民会議等の計画で、色々な活動等が展開されると思います。関係者の皆様や団体のお力添えご協力をよろしくお願い致します!

令和4年度ニッセイ財団児童・少年の健全育成助成団体 紹介

ニッセイ財団は、毎年「広がれ、元気っ子活動」として、地域において定期的・継続的に実施している子どもたち自身が主人公となって行う自然体験・仲間づくりや文化の伝承活動や地域の子育て支援活動に対して都道府県知事の推薦に基づき助成し、活動の輪を広げています。令和4年度の助成団体に伊佐市のスポーツクラブ「羽月サッカースポーツ少年団」が決定しましたので紹介します。

「羽月サッカースポーツ少年団」

- (1) 代表者 小屋敷 誠
- (2) 設立年月 昭和48年4月
- (3) 団員数
小学生 25人 中学生 0人
高校生 0人 指導者 3人
計 28人



河川ボランティア

(4) 活動の趣旨

週3日、小学校のグラウンドや北薩ヘリポートで練習をしています。サッカー選手としての技術や体力の向上はもとより、スポーツ活動や地域活動を通じて心身の育成に力を入れています。

(5) 主な活動（令和3年度）

- 4月～10月 南銀カップ争奪サッカー大会
- 5月 伊佐市U-10大会
- ～1月
- 6月 県ちびっこサッカー選手権
- 8月 河川ボランティア
- 10月 全日本サッカー鹿児島大会



地域活動 田植え体験



試合の様子

小屋敷誠 育成会長は「未だコロナ禍による不安が続いておりますが子ども達の成長を止めることはできません。限りある時間の中で、地域の方々と連携し教育環境や生活環境を私たち大人が守っていかなければなりません。そのような折、サッカー道具一式購入費として素晴らしい助成金を賜りましたことを心より感謝いたします。これからも人間形成の一助になるよう活動を続けて参ります。この度は誠にありがとうございました。」と述べられました。



試合前 心をひとつに

羽月サッカー少年団の皆さんの積み重ねている活動の成果が2023かごしま国体にもつながっていくことを願っています。

御高覧の皆さまも、地域と一体となり活動する未来を担う子供たちを是非、応援ください。



「第44回少年の主張鹿児島大会」が

来る8月7日（日）に県青少年会館で開催。
今年度も、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、関係者以外の入場を制限して開催される予定です。



牛尾校区コミュニティ協議会 ～田植えとどろリンピック～

牛尾校区コミュニティ協議会（山下和弘会長）では6月11日（土）の午後から下牛尾橋横の田んぼ（社会教育推進員の西ノ園さん所有）で、「田植え」と「どろリンピック」を開催しました。

当日は土曜授業後、「もち米の田植え」を行いました。昔ながらの紐を張り、横一列に並んで苗を植えていきました。慣れない手つきでコミュニティ協議会会員のお手伝いをいただきながら、秋の収穫を目指して頑張りました。その後は隣の田んぼで、「どろリンピック」を開催しました。泥に足をとられ、泥まみれになりながら楽しく競技に取り組みました。汚れた服や体はすぐ横に流れる川できれいに落としました。

事務局の西和博さんは「牛尾っ子を昔っ子にもどす」というキャッチフレーズで、2017年から毎年実施しています。参加児童は16人でした。

牛尾小学校の田上卓校長先生は「ここまでしっかりした計画で体験活動を組んでいただける地域は初めてで、驚きと感謝にたえません」と感想を述べられました。現在 YouTube でも見ることができます。（「牛尾小学校」で検索）



錦江小 子ども見守り隊 ～登下校の安全を見守る～

錦江校区コミュニティ協議会（九万田昭会長）では「錦江校区安全パトロール隊」を結成し、登下校の安全指導と見守りを行っています。

当協議会では、青少年育成部、環境安全部、生涯学習部などの専門部を組織化して、その中の環境安全部（泉部長さん）を中心に「パトロール隊」（ボランティア）を募り、32名で下校時（1年生を主に）に見守りを行っています。学校から毎月、下校時刻予定をもらい、その時刻前に正門に集合し、それぞれの方向（3方向）に班を編成し、児童にあわせた歩調で安全見守り活動を行っておられます。

ボランティア会員は65歳から86歳の幅広い年齢層で、平均しますと75歳前後にもなるそうです。中にはご夫婦で参加して下さっている方もおられるとても素晴らしい活動です。

錦江小学校の大川宏校長先生は、「大変交通量の多い所を、コミュニティ協議会の皆さんが献身的に見守りをして下さることに本当に感謝に堪えません」と感想を述べられました。また、九万田会長は「当協議会の発足前から、地元の先輩方が続けてこられた誇れるです」と述べられ、活動の一環として、今後も続けていきたいと話されました。



霧島神宮のお田植え祭 ～巫女と神職に交じり体験～

霧島市霧島田口の「国宝 霧島神宮」にて、神宮齋田で小学生を交えたお田植え祭が3年ぶりに開催されました。新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から見送られましたが、今年、感染対策をとった上で、お田植え祭の神事後、早乙女や早男に扮した袴姿の巫女と神職に交じり、霧島小学校3年生12人が豊作を願い苗を植えました。

田に入ると、どろがぷにゃぷにゃしていました。ひんやりして、とても気持ちよかったです。なえを植えるときはどきどきでしたけれど、きれいに植えることができたので、とてもうれしかったです。(山口裕加さん)

ほいく園ぶりのお田植え祭でした。足を引っこぬくのがむずかしかったです。みんなといっしょのタイミングで植えるところもむずかしかったです。(小水流桜花さん)

今日、お田植え祭でたくさんいねを田んぼに植えました。足と手にたくさんどろがつきました。おじいちゃんがしゃしんをとりにきてくれたので、うれしかったです。次はいねかりなので、次もがんばります。(濱崎慶士さん)

霧島小学校 名越秀人校長先生から「コロナ禍で貴重な体験が実施され、ホッとしている」。児童の感想等に笑みが見え、コロナの早期終息を感じました。



栗野中3年生50人制作 ～モザイク画で平和訴え～

栗野中学校の3年生50人がモザイクアートに挑戦し、湧水町の「いきいきセンターくりの郷」に展示されました。(4月17日まで) 約20色のプラスチックタイルを使ってかたどった、40号サイズの連作8枚を並べました。

使わなくなった額に下絵を描き、他校からもらったプラスチック板をカッターナイフで小さく切って張り付けました。緑だけで4種類使うなど、彩りやグラデーション意識し、栗野岳や丸池など町の風景に、ハトや彼岸花、長崎の平和祈念像を組み合わせて平和の大切さを表現しました。

前田はなさん：修学旅行のまとめを担当で行っていましたが、学年全体で取り組むことになり、いろいろ苦労もありましたが皆が一つになれて良かったです。

松山花栄さん：多くの時間をかけて、8枚をつなげて一つの作品になったとき、とても嬉しいでした。制作期間中にウクライナのことを耳にし、世界中の人に見てほしいという気持ちになりました。

なお、この作品は文化祭に再度展示されるそうです。

